

かお・人インタビュー

2014年10月15日(水)



国土交通省九州地方整備局
博多港湾・空港整備事務所

森橋真 所長
インタビュー

◎九州や福岡の印象について

九州、福岡での勤務は初めてですが、異動先が福岡だと聞いてから、多くの方々から「良いところに異動になったな」と言われ、期待値が非常に高まっていました。福岡は日本史とリンクし、小学校の教科書にも必ず出てくる歴史ある街、街と海、山、川などが一体となった自然豊かな街で、自分が大好きな山の稜線が見える場所もたくさんあり、海の中道公園から博多湾、向かいの市街地を望む風景も最高です。また、オープンで話しやすい人が多く、まさに期待通りの「良いところ」です。

業務の上では、現在事業を実施している博多港、三池港、福岡空港のそれぞれで、地方公共団体（首長）、利用者、経済界などの地元の方々が本当に応援してくださっていることを実感できています。とても嬉しいことであり、そのような現場で仕事ができていることに感謝しています。

◎事務所の紹介と平成26年度事業の概要について

福岡県西部を管轄区域として、博多港、三池港、福岡空港で直轄事業を実施、職員は55名です。目先の業務に追われ、自分自身でも見えていなかったのですが、当事務所は「実はすごい」ことに気づきました。職員だけでなく、周囲にも伝えていきたい。



世界遺産登録を待つ三池港

その「すごさ」は毎年度の事業規模で測ることができないのではなく、提供しているインフラの質の高さです。例えば博多港、三池港ともしっかりと活用されている港湾であり、博多港では物流・人流において、官民挙げての優れた取り組みが進み、三池港では歴史



開発が進む博多港アイランドシティ地区

に裏打ちされた重厚さがある。それら両港で、工期に限りがあるなか、しっかりと事業を進めています。福岡空港でも、非常に密に使用されているなかで、夜間工事も含め着実に事業を実施し、毎年度毎年度やることをやっているからこそ、問題なく見えています、その裏には事務所職員による多くの検討や各方面との調整があるからです。もっと誇って良いと思います。

◎防災・減災による安全・安心の住みよい地域づくりについて

国土交通行政を大きく「グローバルなもの」、「ローカルなもの」に分けると、安全・安心は「究極のローカル」だと思います。国土交通省職員としては当然に両者を担っていかなければならないが、事務所の立場からは、「地域」の視点に少しだけ重点を置きたいと考えています。「安全・安心」こそ、地域から国土交通省、地方整備局が期待されていると感じます。一方で、被害なしが当然、何かあればマイナス評価、という厳しい職責でもある。港湾行政、空港行政はもちろん、ことあれば駆けつけてどのような行政分野でもご相談に乗る、というのが国土交通省のスタンスであり、東日本大震災から学んだ教訓です。

◎品確法など、いわゆる「担い手3法」に対する事務所としての取組みについて

一般論として、現実の課題にきちんと対応し、それを法改正で措置したという事実は行政の世界から見れば画期的なことです。しかも衆議院、参議院とも国会では全会一致で議決されたという事実はとても重く受け止めるべきものと認識しています。とはいえ、

写真提供・福岡市港湾局

実際の制度にどのように魂を入れるかが今後の大きな課題です。総合評価制度導入のそもそもの経緯や意義、今回の法改正の趣旨を理解した上で、事務所での運用に反映させていきたい。



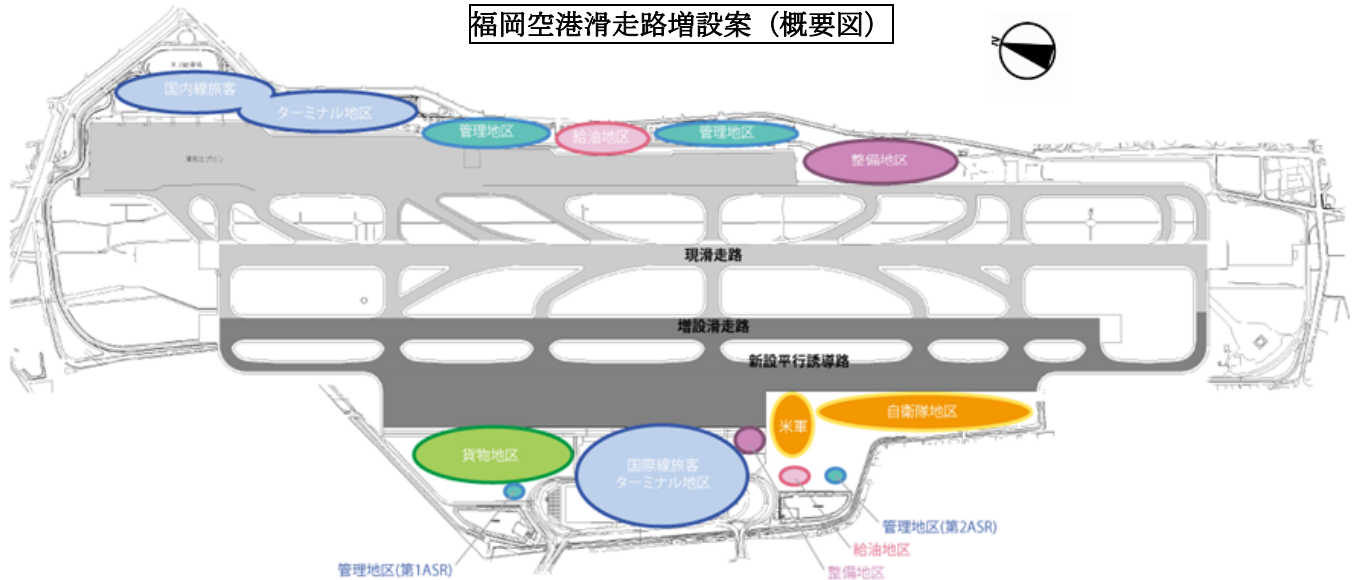
制度全般をどのように「作っていくか」は本省や本局の業務の範囲ですが、それをどのように的確に活用するのか、また運用の結果を踏まえ「こういう課題がある」と伝えることは事務所の使命だと思います。

具体的な手続きのなかに落とし込んでいく過程で、当初の「考え方」や「想い」が失われることのないよう、しっかりと見ていきたい。完全・完璧な制度はなかなかできない。

◎地域建設業界への要望・メッセージ

国土交通省の一貫したスタンスは、建設業界は国土保全や機能強化のためのパートナーであるということ。受注者、発注者という立場の違いはあるけれども、

福岡空港滑走路増設案（概要図）



その認識を共有するところから良い関係を構築していきたい。また、先ほどの改正品確法とも関係しますが、良い制度を作っていくためには必要に応じ修正していくことが大事です。施設と同じで、作ったまま放っておいては朽ちるだけ、利用しながら適切にメンテナンスし、不具合があれば直していくことは当然です。例えば、建設・改良のための仕組みが、維持・修繕にマッチしていないとわかれば対応が必要となります。そのためにも、業界からは、制度が現実合わなくなっているところなどを指摘して欲しい。パートナーであればこそ、そういうことも可能になるはずだ。

◎これまでの赴任地は

これまでの赴任地は主に東京、横浜、名古屋方面で、職歴としては本省が長いのですが、全国の空港や港湾の予算関係の調整業務に携わっていました。また、資

源エネルギー庁電力・ガス事業部電力基盤整備課では港湾局からの出向として、河川局や農水省職員と共に、発電所関係の電源立地対策関係業務を担当していましたが、わたしの担当していたのが福島県で、そのような大震災が起こり、知事さんや首長さんも知っているので、何とも言えない悲しさがあります。

◎趣味などについては

大学院から社会人にかけて、週1回ほど同好会のような感じで、バスケットをやっていました。それぞれが職場も立場も違う異業種交流の集まりであり、いろいろ語り合う中で勉強にもなりました。休みの日はたまに家から近い海岸部の散歩に出かけたりもしますが、都市高沿いの平坦に見える道路が“結構な坂道だったり”とか、“こんなところにこんなものが”あったのかとか、新たな発見の楽しみもあります。

◎プロフィール

- 昭和 45 年 9 月 8 日生（44 歳）
- 平成 6 年 3 月 京都大学工学部土木工学科卒業
- 平成 8 年 3 月 京都大学大学院工学研究科修了
- 平成 8 年 4 月 港湾局建設課採用 第二港湾建設局企画課
- 平成 13 年 4 月 関東地方整備局横浜港湾空港技術調査事務所前任建設管理官（総合政策局技術安全課併任）
- 平成 14 年 8 月 資源エネルギー庁電力・ガス事業部電力基盤整備課長補佐（電源立地担当）
- 平成 15 年 10 月 港湾局建設課専門官
- 平成 18 年 7 月 中部地方整備局港湾空港部港湾計画課長）
- 平成 20 年 4 月 港湾局技術企画課長補佐
- 平成 22 年 4 月 港湾局計画課長補佐
- 平成 25 年 6 月 港湾局計画課計画企画官



平成 26 年 4 月 九州地方整備局博多港湾・空港整備事務所